

予防行政と違反是正 人を残せる一流の消防人を目指して

安来市消防本部予防課 予防係長 前田将光



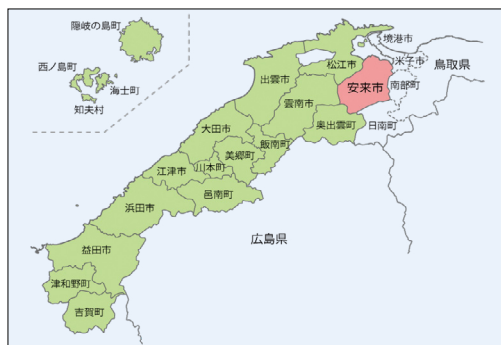
足立美術館 白砂青松庭(写真提供: 足立美術館)

はじめに

安来市は鳥根県の東部、鳥取県との県境に位置し、人口は約37,000人、総面積420.93km²。

地勢は南部に中国山地、そこを源流として中海(湖)に注ぐ飯梨川・伯太川全流域が市域に含まれ、県東部の水瓶としての機能も果たす、布部ダム・山佐ダムを有し、山、川、平野、湖をもつ自然環境に恵まれた地域である。

神話や伝説の舞台として、歴史的、文化的に



重要な史跡も多く存在し、また、戦国時代に活躍した「尼子氏」由来の寺社や難攻不落の月山富田城跡などの観光資源も有している。

日本を代表する民謡の一つ「安来節」の発祥地でもあり、かつては「たたら製鉄」の積出港として栄え、現在も伝統を持つ鋼として知られるヤスキハガネの生産地としても有名である。

また、米誌によるランキングで20年連続日本一に選出された日本庭園を有する足立美術館は国内外から多くの観光客が訪れる観光スポットになっている。

当消防本部はこの地域で、1本部、1署、2分署、1分駐署、職員90名、消防団約660名の体制で日々の災害対応等を行っている。

防火対象物台帳の整理から

「防火対象物台帳の整理？ 査察規程や違反処理規程の策定？ 今必要か？ そんなことは我々が退職してからお前たちでやってくれ！」

筆者が初めて当消防本部予防課の日勤になった約15年前、こんな言葉が上司たちの口から平気が出ていた当時の予防業務体制は、予防課長と予防係3名、危険物保安係2人の計6名であり、予防係では防火対象物台帳の管理、届出書等の受付、消防同意、設備審査や相談業務、自衛消防訓練の指導、査察等を行っていた。

日々の審査業務や相談業務に追われ、加えて訓練指導を本部が行っていたこともあり、一向に進まぬ台帳整理や査察に、どことなく氣にくなさを感じていたのを覚えている（当時は提出された届出を台帳に綴るだけで、以前提出された届出を整理することがないため、古くからある防火対象物などは、消防実務六法のように厚い台帳になっていた）。

これでは防火対象物の現況を把握するだけでも時間がかかってしまい、違反是正どころか査察を行うことも難しいと考え、台帳の整理に取掛かり始めた筆者と同僚を前にした上司は「お前らは開けてはならないパンドラの箱を開けたな！ お前らでやれよ！」と文句を言う始末…

当時、予防行政駆出しの筆者から見れば、造



整理された防火対象物台帳の一部

詣の深いスペシャリストと尊敬の念を覚え始めていた上司に言われたその一言で、刹那的に悲しさを覚えたが、それ以上に「今の上司は格好悪いな！」と感じざるをえなかった。

そんな殺伐とした日々の業務の合間に進めてきた台帳整理の成果が実を結ぶのは、これよりもずいぶん後の話である。

驚愕の予防行政環境

本部予防課勤務2年目。

「規則や規程は、一度定めると全て物事をその通りに進めなくてはならなくなる。法的根拠は消防法第4条に定めてあるので、それ以上のことを定める必要はない！」

予防行政1年目の筆者なら、その上司の力強いお言葉に「なるほど！」と感心していたであろうが、もうそのようなことはなかった。

後日、もっと残念な事実を知ることとなる。

島根県消防学校の予防査察科に入校させていただいたとき、所属の査察規程を持参して下さいと言われたが、上記のような予防行政環境の当消防本部には、そのような大層な規則、規程などが定められているはずもなかった。

驚いたのは、県内すべての他消防本部には査

察規程が存在するという事実であった。

本当に恥ずかしかった…

もう上司の退職は待ってられない。

当消防本部の予防行政のためにも、後に続く後輩たちに恥をかかせないためにも、急いで取組まなければならないと思ったのは、査察規程と違反処理規程の策定であった。

しかし、思いとは裏腹になかなか物事はうまく進まないもので、上司の反発などもあり、査察規程と違反処理規程の策定には、そこから1年半もの期間を費やした。

しかもできあがった規程は、上司に対する忖度だらけの、必要以上のことは定めていない、名ばかりの規程であった。

「規程がないよりはマシか…」そのときの素直な感想である。

変化していた環境

光陰矢のごとしとはよく言ったもので、あの上司もご勇退され、筆者の予防課日勤5年間は瞬間に終わりを迎えた。

正直、日常業務以外で残せた成果は、台帳を分かりやすく整理したことと、査察規程と違反処理規程を策定したことくらいであった。

この頃には年間の立入検査件数も以前よりは増加していたものの、今までほとんど実施していなかった立入検査を実施することが精一杯で、立入検査後の追跡調査や進捗管理はあまりできていない状態であった。



安来市街地

このような状況で後任に引継ぎをするのは恐縮至極であったが、そこは人事に逆らえるはずもなく現場へと異動になった。

それから4年、再度予防課日勤の辞令を拝命することとなったが、正直気が重かった。

またあの殺伐とした日々が戻ってくるのではないかという心配があったからだ…

しかしそのようなことはなかった！

久々に復活した元職場で、筆者を待っていた環境は、やろうとすることを全力でサポートしてくれる上司と、やる気のある同僚であった。

この頃の予防係は2名で、以前より人数こそ1名減ってはいたが、日常業務や審査業務、査察を実施するだけではなく、その進捗管理や追跡調査も実施できる、以前の何倍も働きやすい環境へと変化していたのだった(訓練指導等は署所が実施するようになっていた)。

人でここまで環境が変わるのかと、改めて実感したのはこの時だった。

やれることを今やろう！

このような状況になると、何故かほとんどの仕事が上手くいくようになった。

防火対象物台帳を電子化する話が出たときも、前に防火対象物台帳整理をしていたのと、それをより良いものにしてくれていた後任者がいたからこそ実現できた。

査察規程と違反処理規程も、策定していたからこそ、より良いものに改正していく足がかりになったのである。

数年前まで、管内約1,300件の防火対象物管理と査察は予防係のみで行っており、十分な査察を実施できず、また多くの職員が現場隊員としての兼務辞令を受け、警防、救急、救助を希望する職員が多いことから、予防業務に対する意識は当然低いものだった。

今はやる気のある同僚でさえ、数年前までは「査察は予防課がすればよい」という認識で、消防法施行令別表第1の用途すら分からない状況だったらしい。

その同僚も、筆者が予防課に帰ってきた1年



予防勉強会の様子

目に消防大学校予防科に入校し、講義の中で「予防は人命救助の最前線、警防は人命救助の最後の砦」という言葉を学び、当消防本部でもこの言葉を柱として職員全員で予防業務に立ち向かうことが必要だと言われ始めた。

やる気のある上司と同僚に恵まれた。

『やれることを今やろう！』

思い立ったが吉日！ まずは現場の隊員も計画的に査察を実施できる体制を構築するために査察規程と違反処理規程の改正を行った。

予防勉強会

規程を改正したことにより、現場の隊員が査察を行う体制が確立された。

しかし、体制はできたものの、職員から「立入検査や違反処理をするために何から手をつけて良いか分からない」という声が聞かれたことから、予防業務に対する基礎的知識の習熟を図る集合的な教育として、予防勉強会を計画した。

これは自主参加型ではなく、勤務中に行えることを前提とし、本部予防課員が現場隊員に対して行うものである。

最終目標は、消防法第5条の3「吏員命令の行使」とし、初年度中は出張型の勉強会、次年度は各署所のオンライン環境を整えてビデオ会議を活用し、「基礎編」「査察準備編」「シミュレーション編」「違反処理編」と足かけ2年で段階的に行った。

その結果、査察結果報告書の内容や勉強会後



ケーブルテレビで放送された査察練成会

の感想等から、ある程度の成果は確認できたが、更なるレベルアップを目指す方法はないかと知恵を絞り、検討を重ねた結果、署所対抗で行う査察練成会を計画することになった。

査察練成会

査察練成会の参加者は各署所から2名1組で計4組選出、内容は筆記部門と実技部門に分けて行い、特に実技部門では市内飲食店の協力を得て実際に飲食店に出向き、法令や規程に沿った指導ができるかを競ってもらった。

また、飲食店店主にも関係者及び訓練評価者としてご協力を頂き、消防法令の知識が少ない方の意見、民間の方から見た消防の接遇について、どの組の説明や指導が一番分かりやすかったかという部分も評価の一部として取り入れた。

参加者からは、「他の査察員の指導と比べるとできて参考になった。事業所で実際に行うということで緊張感もあり、良い訓練ができたと思う」といった意見等をもらい、飲食店店主からも「同じ違反の説明でも、様々な事例を紹介していただきながら納得のいく説明をしてもらえると、以後の違反抑制にも繋がると思う」という言葉を頂戴し今後の査察指導を実施していくうえでの参考になった。

また、この練成会の一部を市内ケーブルテレビで放送してもらうことで、市民に対する予防業務の広報にも繋げることができた。



署所の査察

違反是正に対する考え方の変化

このような地道な努力を重ねていると、署所の査察体制にも、また違反是正に関する考え方にも若干の変化が生まれた。

ひと昔前までは、立入検査をして通知書さえ出せば一段落、違反是正をしない防火対象物は本部に引き継げばよいという考えだったのが、違反是正をしてもらえない対象物に対しても、警告まではしっかりアフターフォローしていこうという考えに変わった。

各署所にも、本部予防課日勤や兼務で予防課を経験した職員も少しずつ増え、査察が不慣れた職員をサポートするキーパーソンとして活躍してくれている。

人が環境を変え、環境が人を変えてくれた。

人材育成の大切さを痛感した。

おわりに

十数年前の防火管理台帳の整備から始まり、勉強会や練成会を実施できるようになり、少しずつではあるが査察環境が整ってきた当消防本部で昨今、職員の間でようやくこのような会話が聞かれるようになってきた。

「査察を実施し、関係者に指導をしていくうえで、査察員の裁量に任せられる部分があるが、職員間でも裁量に違いがあることが分かってきた。このような場合の指導基準をもっと明確にするべきではないか？」

予防係として課題を突きつけられたようなも

のであるが、本当に喜ばしい意見である。

数年前からは考えることができない、予防に対する様々な意見が飛び交うということは、職員の意識に変化が出てきた裏付けであろう。

予防係として指導基準の整備を検討していくと同時に、今後も地道な研修や勉強会等を通じて、組織全体のレベルをあげていく必要性も感じている。

当消防本部ではまだ動き出したばかりであるが、100人前後の小規模消防本部だからこそできる、意思統一のしやすさや、現場経験をふまえた査察指導等を活かし、職員全員が人命救助の最前線で戦える組織を目指していきたい。

あとがき

昔、知り合いの料理人からこのような言葉を聞いたことがある。

「料理がおいしいのはあたり前！ その後三流の人は金を残し、二流の人は店を残した。そして一流の人は人を残すんだよ！」

ここから先は、筆者の勝手な思い込みであるということを前提に書かせていただく。

消防に憧れを抱き消防士になった人は、何を目指して消防人になったのであろう？

おそらく、人を助けるということに高い志を持って入った人や、救急、救助ってカッコいいと思って入った人は大勢いるであろう。

しかしながら、予防行政を真摯に取り組み、その最前線で活躍し、人命を守りたいと思って入ったという人はほとんどいないだろう。

人は何かに憧れると、自分もそうなりたと思うのではないだろうか。

颯爽と査察に向かい、スマートに違反是正をこなす。そのような姿を見せることで、職員の中に少しでもカッコいいと思って、この分野を目指す人が出てくれば幸いである。

今回、月刊フェスクに投稿させていただくという名誉とチャンスを与えてもらい、自身の行動や今の業務を見直す良い機会となった。

今後も、人を残せる一流の消防人に少しでも近づけるよう精進したい。